

# 会長挨拶

国大化学会会長 横山幸男（昭和49年電化卒）

2020年は国大化学会にとっても苦難の年になってしまいました。1月のリーダー会議開催を最後に、対面型会議はメール審議ないし遠隔にせざるを得なくなり、基幹事業の学生支援が滞る事態となっています。しかしながら、最も影響を受けたのは新入生とされます。本来なら、「ご入学おめでとうございます…」と新入生オリエンテーションにおいて会長挨拶をするところでありましたが、通常開催されるべき大学行事はことごとく中止に追い込まれ、少なくとも春学期内の集合対面型行事は見送りとなりました。本人の努力の末、見事化学生命系学科に入学したにもかかわらず、晴れて四月からと思いきや大学内に足を踏み入れることもなく、友人関係の構築もままならず、バーチャル先生たちの遠隔授業に苦労されたことと思います。本会誌が発行される頃には新型コロナウイルス禍が終息していることを祈るばかりですが、日本だけの問題ではないので、今後も難しい対応となることが予想されます。

さて、二期四年目の役員体制は、学生役員が8名と国大化学会始まって以来最多を数え、皆様のご協力に感謝いたします。教育研究支援基金運用グループの学内役員小林憲正先生が定年退職されたため、後任を藪内直明先生に加わって頂いた以外は昨年と変わらず、ほぼ継続の体制で参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

国大化学会の活動は従来を踏襲し予定を立てましたが、4月以降の半年間は目に見える活動は休止状態にあります。秋以降は様子見となりますが、本稿編集の段階で、12月初めに開催予定であった「学



生・企業合同交流会」は中止といたしました。次年度就職活動のための情報収集の場を提供する企画であり、当該学生には好評を得ていたところですが、やむを得ずの対応となりましたこととお詫びいたします。従来の学生支援がままならない状況にあるため、代替措置として、現役学生の経済的あるいは精神的な負担を少しでも軽減するための緊急支援金給付案が、先の総会代替投票にて可決されました。会員各位のご協力に感謝いたします。

2020年は理工系創立100周年にあたりいくつか記念事業が計画されています。記念祝賀会や記念誌発行は来年に延期となりましたが、キャンパス西門を羽沢横浜国大駅へのアクセスゲートとして相応しい形のものに整備する事業は、最優秀デザインに従い計画通りに実施されるということです。これにかかる費用の分担金拠出に関しても会員各位の同意が得られましたことをご報告いたします。旧工学部の象徴である名教自然碑の周辺整備はすでに終了しており、元的美観を取り戻しました。この際、羽沢横浜国大駅から常盤台キャンパスを訪れ、改装なった登録有形文化財をご覧になっては如何でしょうか。